



## 卒業を迎えて

第43期生卒業生 平野 雄太

厳しい冬の寒さも和らぎ、生命の息吹が感じられる季節に私たち第43期生は長島愛生園附属看護学校を卒業します。この2年間は、新型コロナウイルスが流行している中で、学校行事や病棟実習などが中止・講義もオンライン授業になるなど、多くのことが変化する中で、皆様の支えの中で卒業を迎えることができました。

私たち第43期生は、クラスのみなが仲が良くとても楽しいクラスでした。時々、はめをはずし教官に指導されることもありましたがやる時にはクラス一丸となり、行ってきました。思い出に残っているのはやはり実習です。最初の基礎看護学実習では初めて患者様に会い、看護を行っていく中で「どうしたら患者様が安楽になるのだろうか」「自分がどのように動いたらいいのか」最善の看護についてなやみ、落ち込み、泣いたりもしました。そんな時は、いつもクラスの仲間たちや教官や実習指導者さんが支えてくれ、指導を受けることで壁を乗り越えていき多くの学びを得ることができました。その中で私が心に残っている学びは、看護は一人ではできないということです。クラスのみんな、教官・指導者さんの意見を素直に聞き、自分の意見とは違う意見を怖がらず受け入れ自分に取り込んでいくことで成長につなげられるということを学び、今でも心に刻み勉強しています。この長島愛生園は、学生だけでなく教官・病院・入所者さんがみんなで一つの島を作り上げています。ここでしか学べない、生命の尊厳と人権の尊重、協調性を今後の人生に生かし胸を張って「長島愛生園附属看護学校の卒業生です」と言いたいです。

